

を確認する。予定より 30 分ほど早いペースである。携帯で時間を見ていて、電池残量が 55%に減っていることに気づく。「ガーン！！しまった～(´Д｀)」最近 YAMAP でログを取りながら登山しているが、「機内モード」に切り替えることを忘れていた為、電池が消耗したようだ。今日はロングコースだし、九千部山以降初めてのコースで、写真やログを取ることを楽しみにしていただけに、正直テンションが下がる。しかし自業自得だし愚痴を言う仲間もいないので、気持ちを切り替えて石谷山を目指す。

九千部山～石谷山への道は、道標はあるが 2 か所ほど立ち止まって確認する場所もあり、夜間だと通過が厳しいと感じた。しばらく歩くと登山道に雪が残っている。下界では気温も上がって、晴天が続いていたので、雪が残っていることに驚く。足元の雪は固く凍って、歩く度ザクザク音がする。また、頭上から溶けた雪氷の塊がサラサラと音を立てて落ちてくる。木々の合間に真っ青な空が透けて見え、ひっきりなしに降り注ぐ雪氷とのコントラストがとても美しかった。

11：14 七曲峠到着。ここで道標を確認すると「◀基山 15.0 km・背振山 9.5 km▶」とある。もう後戻り出来ない。予定より早いので意を決して先に進む。



11：40 坂本峠を通過。携帯電池残量が 15%となった為、YAMAP を終了。ここ迄の活動距離は 21.8 km と記録されていた。坂本峠から蛤岳へ、しばらくは整備されて歩き易い縦走路が続く。美しい水流を見ながら蛤水道に沿って歩くと、2～3 組の登山者とすれ違った。蛤岳直前の上り道に入ると、ぐちゃぐちゃに溶けた雪に足を取られて歩きづらい。昼になって更に雪が溶けているようだ。

13：00 蛤岳に到着、眺めがよいという岩の上で本日二度目の小休止。楽しみにしていたイチゴクリームサンドイッチを食べながら地図を確認。体調もタイムも良好なので、体が冷えないうちに出発する。しかし、この後背振山までの道は悪かった。雪とクマザサが行く手を阻み非常に歩きづらい。また、雪解け水が流れ込み登山道が通れず何度も迂回し、ぐちゃぐちゃな雪道を歩くことになり、かなり体力を消耗した。

14：40 背振山駐車場に到着。数台の車が停まっている。地図を見ながら下山道を検討。板屋峠経由だと 1 時間 45 分。矢筈峠から車谷コースだと 1 時間 55 分。本来、椎原から 17：57 のバスに乗る計画だったが、頑張れば 16：06 に間に合うかもしれないという状況。どちらのルートを取るか非常に迷ったが、結局一度通ったことのある車谷を選択した。車谷は沢沿いのコースで、下り始めは急峻な箇所もあるが、道標やテープもあり踏み跡もしっかりしており、内心ほっとした。しかし、30 分位下ると倒木も多く道が荒れている。テープやケルンを確認しながら、何度も渡渉を繰り返して下る。7～8 年前は登りで使ったが、当時より更に荒れた印象で、下りのルーファイが難しい。テープを辿り渡渉し、沢の中洲に渡った所でその後のテープが途絶えた。目を凝らして周囲を見回すもない。慌ててはいけないと自分に言い聞かせ、一つ前のテープまで戻り、他に道が無いか探す。同じ場所を何度も往復、10～20 分程度費やしたと思う…。下山ルートが見つからないと背振に引き返さないといけないが、それは出来れば避けたい…。電池残量が少ないので携帯の GPS をあまり使いたくないし、地図を見る限りルートは外れていないはず。結局最初の中洲に戻り、不安な気持ちを押し殺し本来登山道がありそうな方向を見回す。「あった～！！」思わず大声で叫んでしまったが、10 メートル程先に細い踏み跡が見えた。雪解け水が

登山道に流れ込み川になっていた為、道が切断されており気づかず見落としていたようだ。なんとか川を下り登山道に合流。内心とても不安だったので心からほっとした。これが夕方だともっと暗く、本当に遭難していたかもしれない。その後は、渡渉もなく歩き易い登山道になる。時計を見ると 15:35。かなり時間をロスしてしまった。16:06 バスは間に合わないかもしれないが…気づくとゆっくりと駆け出していた。なだらかな登山道を経て林道に出る。ようやく登山口に着く。後 15 分しかない。バス停まで徒歩だと 30 分なので、ギリ間に合うかとも思いながらペースを上げて駆け続け、ようやく民家が見える。集落ですれ違った女性に、バス停迄 5 分と教えて頂く。そこからは全力疾走~!! 道路に出た私の視界にバス停から発車するバスの姿が…。勿論そこからは歩き、16:07 バス停に到着した。5 分ほど座りこんだ後、時刻表を見るが次は 17:57 しかない。何度見ても同じであった。(年始め金満山ハイクでも似たような光景を見たような…デジャブ?) ここで 2 時間も待ちたくない私は、人生で初めてヒッチハイクを試みる。2 台ほどチャレンジするが止まる気配も無かった。ここに 10 時間も歩いて来て困った女性がいるのに、世間の風は冷たいなと思ったが、ここまで単独行で頑張ったから、最後まで一人で頑張ろうと思ひ直し、陽光台に向けてトボトボ歩きだす。途中、柴犬と散歩中の親切な男性に出会い、脇山小学校の方が近いことを教えて頂き行き先を変更。脇山小学校前から 17:11 発博多行きバスに乗り、本日の長い山行は終わった。

～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．

【振り返り】

《反省点》

- ・前半から携帯電池残量が少なくなり、気持ち的に不安な山行となってしまった。
特に単独行でエスケープが難しい長時間山行であったことから反省したい。
→下山後、携帯型充電器を購入しました。
- ・下山に車谷コースを使ったが、当初予定の 16~17 時台通過であれば、日も落ちて更に厳しくなっていたと思われる。
- ・この時期であれば、クマザサや雪道対策として、スパッツがあると良かった。

《良かった点》

- ・当初の山行目的を 3 つとも果たせたこと。
11 時間歩き通すことが出来た上に、疲れや筋肉痛もなかった。やはり丁寧な足置きや休憩中のストレッチが効いたようだ。服装も確認できたし、特に新しい登山靴の防水力が発揮され、雪や渡渉でも靴の中が全く濡れず快適だった。
- ・初ルートで単独行で、ドキドキする場面もあり心身ともに成長出来ました (笑)